

第1回懇話会から第2回懇話会までの取組

第1回懇話会意見への対応及び方針

案件(1)【資料1】次期計画策定に向けた本市の取組		
発言者 (敬称略)	内容	対応及び方針
妹尾	こどもの意見反映について、学校生活等において辛いところや、負担に感じているところも聞いてほしい。	・出前授業において、ワークショップを行う中で、辛いところなど幅広い意見についても把握します。意見については、まとめ資料のフィードバック等を行い、意見を受け止めプランへの反映に向けて検討します。
妹尾	WG について、未来志向で理想的な目標から話すこともいいが、現状の問題解決として、何を解決しないといけないのか、なぜ実現できないのかということをしっかり考えてもらいたい。	・今後、WG での主な取組等の議論において現状の課題等に基づき、主な取組等を検討します。
田村	こどもや教員の意見表明について、率直に意見をしたいと思ってもらえるように、安心して意見を表明できる場を確保、保障する必要がある。また、意見をもらって、最終的に決まったことを叶えていくための条件整備を教育委員会がしっかりと保障することを表明することで、また安心感をもって意見を表明できるようになる。そのような繰り返しによる関係づくりが重要である。	・意見については、まとめ資料を作成、その対応などについても、フィードバック等を行い、意見を受け止めています。今後、その意見について事務局で対応について検討し、返していく予定です。
葛西	学校の教員だけでは、狭い考えや既存の枠組みに囚われやすいので、広く視野を取れるようになる工夫が大事である。保護者や社会教育の関係者など、異なる所属の人を WG にいれるとよいのではないか。同じようにこどもの意見についても、生徒会のリーダー層だけでなく、幅広く多様な意見を収集できるように。	・WG では、理想論等だけにはならないようにとの考えもあり、事務局職員も含めてい。懇話会において、PTA (保護者代表) やこども会 (社会教育) からの構成員がおり、また、パブコメでも広くご意見をいただけたと考えています。 ・こどもの意見については、出前授業において、ワークショップを行う中で、リーダー層だけではなく、幅広い意見についても把握します。

案件（２）【資料２】「第３期末未来をつくる堺教育プラン」の振り返り

発言者 (敬称略)	内容	対応及び方針
<p>苫野</p>	<p>インクルーシブ教育について堺市はどのように考えているのか。全国的にインクルーシブ教育を実現していく時期がやってきていると思うが、今回のような基本計画等を書き込まないと動き出さないという現状はあるかと思う。今回盛り込んでいくのか、現状もあわせて聞きたい。</p>	<p>本市において「インクルーシブ教育」は、UNESCO のガイドライン（2005 年）にあるとおり、「多様な子どもがいることを前提に、その多様な子どもたちが同じ場で学べるようにするため、教育制度そのものを改革していくプロセス」として捉えています。言い換えれば、障害の有無にとどまらず、性的マイノリティ、外国にルーツを持つ子ども、社会的に困難な状況にある子どもなど、多様な背景を持つすべての子どもたちが教育を受け、共に学ぶことができるようにする教育改革です。これは、単なる現行の教育制度の見直しにとどまらず、教育の在り方そのものを問い直す抜本的な改革であり、本市の教育委員会のみならず、文部科学省等においても大きな議論が求められるものと考えています。</p> <p>今回、「インクルーシブ教育」の議論についてご指摘いただきましたが、本市は、「共生社会の実現」の理念のもとに、全ての子どもたちが多様性を尊重し合いながら、社会の中でたくましく生き抜く力を育むことをめざし、各事業を充実しております。今回の教育振興基本計画においては、「インクルーシブ教育」については明示的な記載はしませんが、「共生社会の実現」や「多様性の尊重」といった事業に関する議論を継続したいと考えます。</p> <p>なお、本市では、「共生社会の実現」をめざす「インクルーシブ教育システム」の考え方に基づき、積極的に取組を進めてきました。特に、先進的に取り組んできた「ともに学ぶ活動」を支える多様な学びの場（通常の学級、通級指導教室、支援学級、支援学校）を、「インクルーシブ教育システム」として持続的に充実させています。そして、「共生社会」の一員として「ともに認め合い、支え合う」ことができるこどもを育むため、特別支援教育を推進し、障害のあるこどもと障害のないこどもが、可能な限り同じ場でともに学ぶことを追求するとともに、一人ひとりの教育的ニーズに的確に応える指導を提</p>

		<p>供できるよう、多様で柔軟な仕組みの整備に努めています。さらに、障害のある子どもが通常の教育課程に准ずる活動を活発に行う交流及び共同学習の実践も数多く行われており、こうした実践を大切にしながら、個に応じた適切な指導が提供できるよう、以下のような取組を進めています。</p> <p>計画的・継続的な「ともに学ぶ活動」の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流及び共同学習の推進（校内、居住地、地域） ・弾力的で連続した多様な学びの場の充実 <p>教育的ニーズに応じた「それぞれの学びの場」の円滑な接続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校群の取組・合同研修の実施 <p>障害の特性理解や教育的ニーズに応じた「合理的配慮」の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通級指導教室の全校設置に向けた教職員研修 ・ICT 端末の活用による多様な学び方の推進 <p>令和 8 年度以降の次期堺市教育振興基本計画においても、引き続き「特別支援教育の推進」として、「インクルーシブ教育システム」の構築とその充実を図ってまいります。</p>
妹尾 田村	各データや指標について、推測を含むものもあるだろうが、分析と考察をすることが必要である。例えば、学力であれば社会経済的な背景や日本語能力が十分に育っていない子どもがいるという背景があるとすれば、堺市は十分にがんばっているという可能性も出てくる。「自分で計画を立ててー」や「ふだんから『なぜだろう』」の数値の低さについては、実際に子どもと共有して問いかけてみることもいいかもしれない。	<ul style="list-style-type: none"> ・各指標に関しては、毎年実施している点検評価の中で、要因分析やその分析を踏まえた対応について所管課において検討しています。 ・次期計画での取組や成果指標を各課において検討する際には、取組や指標などを変更するものについて、現状や課題を分析したうえで変更を検討します。

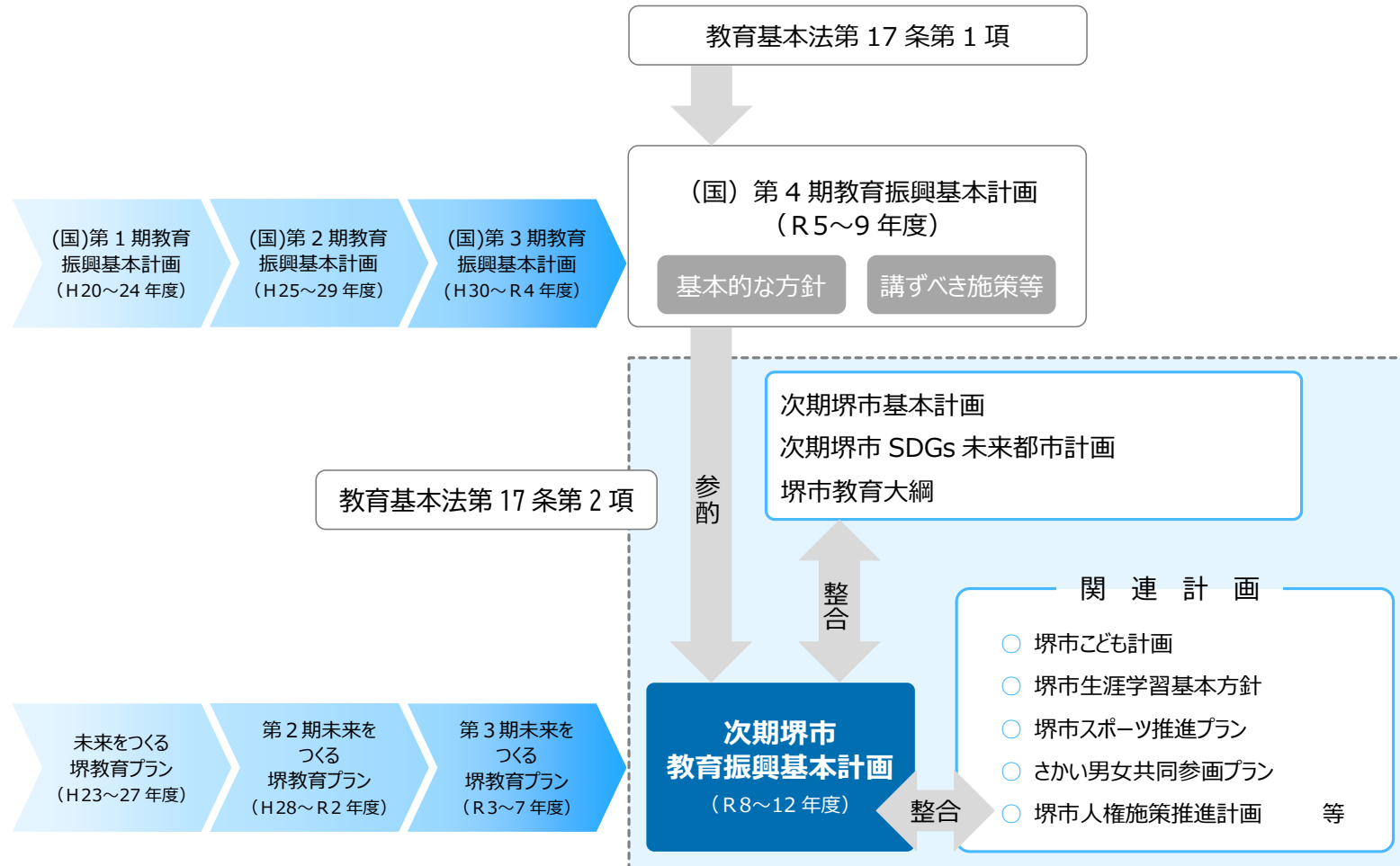
案件（3）【資料3】次期計画の体系整理について

発言者 (敬称略)	内容	対応及び方針
菅	堺市のめざす教育像になぜ「家庭」が入っていないのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育基本法第 10 条では、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習機会や情報提供などの支援を行うことが求められています。自主性の尊重もあるので、めざす家庭の教育像を自治体が示すことは困難です。ただ、だから入れないというのではなく、次期プランの説明の中では、理念等の前段階で家庭教育についてきちんと触れたいと考えています。
葛西	かなり学校教育に偏った作りになっている。社会教育や生涯教育をどう位置づけるのか、議論が必要である。堺市として、社会教育についてどのような哲学を持つのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・第 3 期プランに引き続き、次期プランは学校教育を中心として、家庭、地域社会も含めた教育に関わる取組をプランの範囲としており、プランの位置付け図（案）に、関連計画を追加し明確化します（堺市生涯学習基本方針、堺市スポーツ推進プラン、堺市人権施策推進計画、さかい男女共同参画プラン等）。
苫野	教育理念やめざす教育像について、今回の計画では議論しないのか。理念から問い直すことは可能なのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会事務局内での意見交換や教育委員意見交換会において協議を行うことで、本市教育の最上位にあたる教育理念やめざす教育像の内容について、今後 5 年間の方向性の確認と内容の共通認識を図ります。
苫野	教育理念の「ひとづくり」「まなび」「ゆめ」など、共通認識が必要であり、いずれにしても最上位について、それが何なのか議論ができればいい。	
泰山	今回の策定については、学習指導要領の議論とは切り離せない。「働き方改革」や「情報活用能力の育成」、「個別最適な学習」などのキーワードを少しハイライトすることが重要なのではないかと。 「わかりやすさ」という点でも国の方向性に対応できるように構造を検討することも必要ではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・素案を作成、中身を膨らませていく中で、国の学習指導要領とのキーワードのリンクなどを意識した記載とします。

【その他ご意見】

発言者 (敬称略)	内容
泰山	こどもや教師の意見を取り入れることは重要だが、それをそのまま受け止めてしまうと、DX化等から遠ざかってしまう懸念もあるように思われるため、どのように意見を取り入れるかについては、今後の課題とする必要がある。
水流添	こどもたちの生きる意欲や学習に向かう意欲の育成がスタートラインになれば、授業の改善や、こどもに寄り添う姿勢があっても難しいと感じている。こどもたちの家庭環境など、背景理解を進めることで、様々な取組が一層効果を生むのではないか。
菅	学力育成について、家庭での学習時間が短いということであった。この点の改善は学校だけでなく、保護者やPTAなど地域全体を巻き込んでいくことが必要であると思われる。
松久	確かな学力、豊かな心、健やかな体は従来から大切にされてきた要素だが、なぜその実現が難しくなっているかについて検討することが重要である。
松久	大きな問題として不登校の問題がある。教育支援教室の増設や、フリースクールとの連携など、素晴らしい取組である。学びの多様化学校についても今後考える視点の一つである。
飛石	教員が担う業務が多岐にわたっている。働き方改革の中で、教員のフォローができる環境を整えた上で、こどもたちへの教育が成り立つと思う。
妹尾	教育委員会の改善、教育委員会事務局職員の負担軽減等のウェルビーイングについても検討することが必要である。
田村	要因分析をすることは大事である。低学力の問題の背景には社会経済的背景や、日本語能力の低下などが関係している可能性もあるため検討する必要がある。
田村	対話的に学ぶことによって、こどもたちが学びを深めたり、楽しんだりすることができる。一人で頑張るだけではなくて、これから生きて行く中で人とつながり、一緒に考える中で、社会も自分の生活も良くなるというような経験もすごく大事ではないか。このような点も指標にあればいいと思う。
松久	不登校に対する支援策として、多様化学校やメタバースなどの新たな支援方法などを検討しているのか。
飛石	不登校の要因については様々あり、学校へ行くことだけが是ではない。不登校としてひとくくりせず、様々な考え方を踏まえて、「不登校」という言葉を変えていきたい。

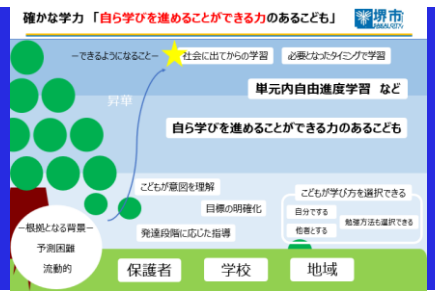
○次期計画における位置づけ図（案）



ワーキンググループ及び こどもの意見の取り入れに関する取組

確かな学力 に向けためざしたいゴール (第1回WGより)

自ら学びを進めることができる力のあるこども



どのように達成・進捗を評価するのか

成果指標の目標達成によりゴールの実現

指標の提案

こども

教室の外での活用、能力の発揮 (こどもも教員も)

教員

社会への興味関心
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

経年での成長
堺市学調での学力の伸び
国・算 (数)

自分のよいところを出す場面はありますか。

教員が自身の教育・授業をふりかえるアンケート

学校の勉強は将来役に立つと思う。

自ら計画
自分で課題を立て、学習活動に取り組んでいる

学びのコンパスの探究サイクルの矢印を大きくする工夫をしているか

ニュースや社会情勢の内容がわかるようになった (関心がある)

問いを見つけ、問題解決のために、自分で方法や計画を立てて取り組むことができる。

自分で修正 (調整・コントロール) しながら目標に根気よくつきすすむ

どのような取組により、成果指標の数値を向上させるのか

取組の実施、充実により、成果指標の数値が向上

取組の提案

評価 授業が変われば評価が変わる

生徒の評価方法を大きく転換する必要がある。学びのコンパスを意識した授業改善を進めていくと評価の方法で悩むと思う。既存の定期テストやレポート課題の内容を大きく見直す必要がある。

授業 意識が変われば授業が変わる

こども自身がどういう課題をもって、その取組がなされているのか、どんな生徒をめざして学習を進める必要があるのか知っておくべきであり、その周知

学びのコンパスの考えにもとづく、こどもに学びをゆだねる授業づくり、授業改善 (改革)

指導教諭及び研修主任のあり方の再考。研修の盛んな学校、そうでない学校があり、研修主任の手腕によって、内容が大きく変わる。流動的な時代に教員が対応するためには、リーダーシップや見通しを持てる指導教諭、研修主任を配置する。

非認知能力の育成

○年次研修のような与えられた研修をやらされているように感じている教員が多いように感じる。研修を人事評価に組み込み、ポイント制にし、幅広い研修から自分が受講したいものを受講できる制度の構築。

意識 少しのきっかけでこどもが変わることを教員が実感

保護者意識を変える (教科学力だけではない)

教員間でこどもの変化を伝えあう

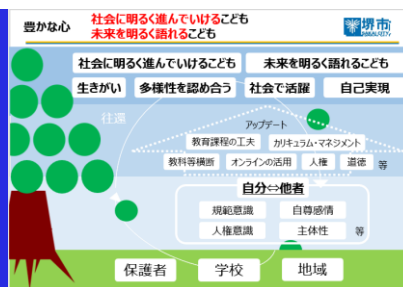
こどもにつけたい力の見通しを持つ

こども観・指導観の見直し

教員の授業観や教育観をはっきりと転換する必要がある。意識改革を行えるか (今までの教育観から離れられない。)

豊かな心 に向けためざしたいゴール (第1回WGより)

社会に明るく進んでいけることも
未来を明るく語れることも



どのように達成・進捗を評価するのか

成果指標の目標達成によりゴールの実現

指標の提案

自分を大切に思う

自分のことを大切だと思ふ

夢、希望、なりたい人物像、
職業がある

自己肯定感、自己有用感、
自尊感情を図る質問紙

失敗をおそれず挑戦している

他者を大切に思う

人が困っているときは進んで助けている

人の役に立ちたいと思ふ

人と協力して取り組むことは大切であると
考える

困ったときは他者と協力すれば乗り越える
ことができると思ふ

伝えたいことを伝えたり表現できる

自分の良さを知り
相手と認め合う

人権感覚を測る調査

社会を大切に思う

課題があれば解決したいと
思ふ

地域・社会の役に立ちたいと
思ふ

世界の人とつながりたいと思ふ

他者と話すのは楽しいと思ふ

協力して取り組むことは
楽しいと思ふ

どのような取組により、成果指標の数値を向上させるのか

取組の実施、充実により、成果指標の数値が向上

取組の提案

教員から子どもへの声掛けや関わり

不適切行動だけではなく適切（良
い）行動を認める声掛け

教員の資質や指導力を高める研修
（声掛け実例など）
研修で方向性の統一

キャリア教育との連携
キャリアパスポートの活用

保護者や教員への
勇気付け

子どもの良い所を見つける、
認めるためには教員自身の
自己肯定感の向上も必要

教員同士
でよい所を
伝え合う

自分ごととして
考える

多様な価値観を持つには
新しい人との出会いが必要
（学校間での交流）

多様な人がいるということを知る経
験（ルーツや文化）

体験→気づき

異文化を知る機会の創出
（ゲストティーチャーの活用）

オンライン英会話など世界や文化
とつながる体験

国や市の多文化共生の取
組を学校へ一本化して周知、
実施校をシステム化

他者を尊重して
関わる

友達の困りごとを学級や社会の全
体のこととして考える取組

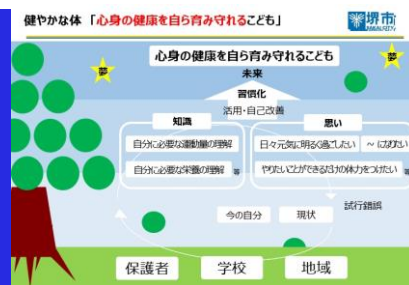
深い思考や豊かな交流
のため言語能力の向上

スマホやSNSのルール

人権教育と道徳教育を授業に加えて教
育活動に落とし込み、学校群で共有

健やかな体 に向けためざしたいゴール (第1回WGより)

心身の健康を自ら育み守れることも



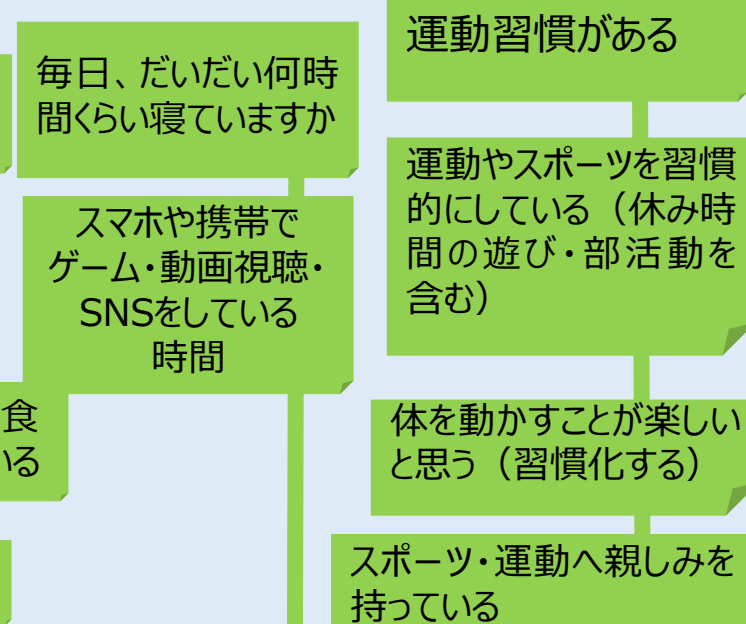
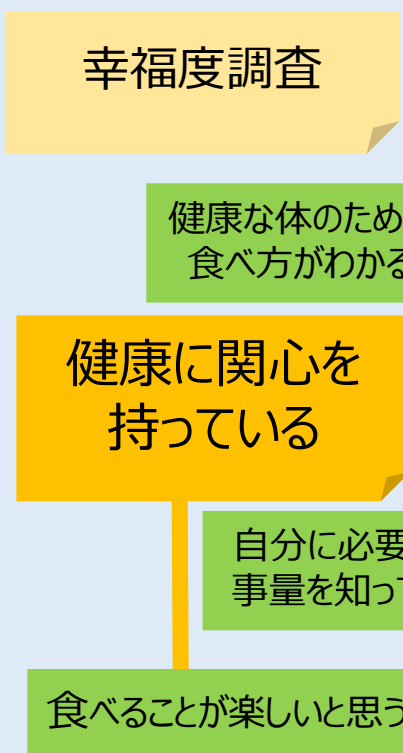
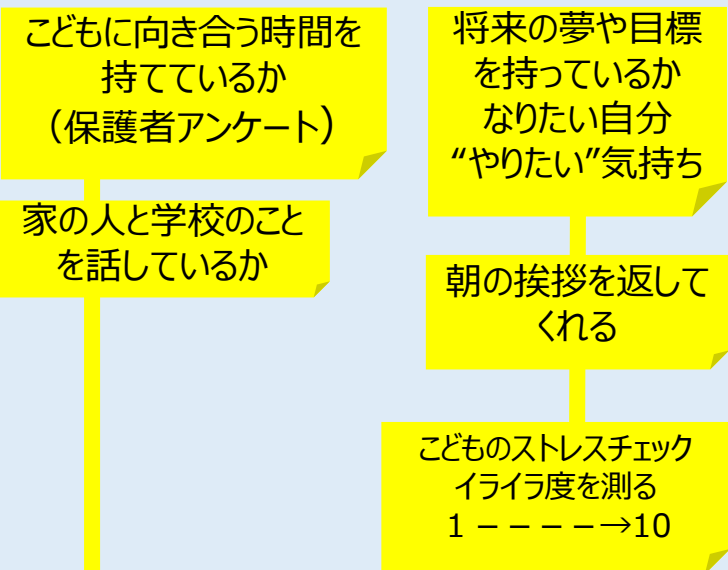
どのように達成・進捗を評価するのか

成果指標の目標達成によりゴールの実現

指標の提案

心の健康

体の健康

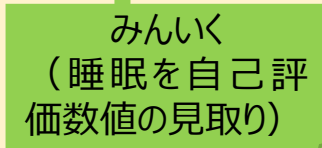
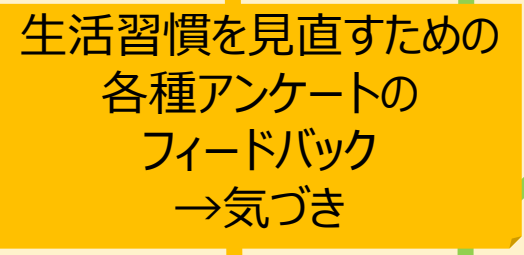
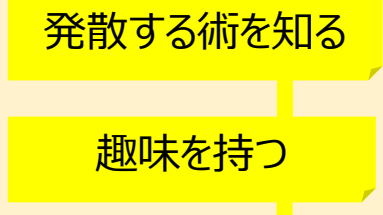


どのような取組により、成果指標の数値を向上させるのか

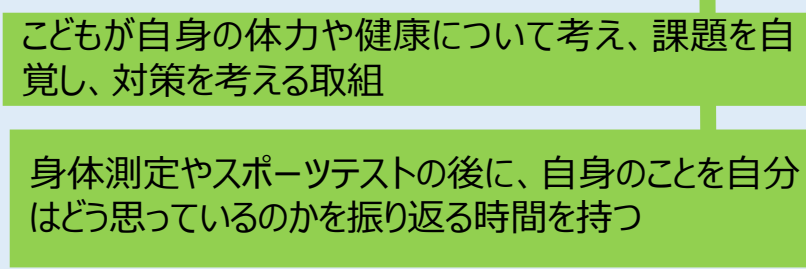
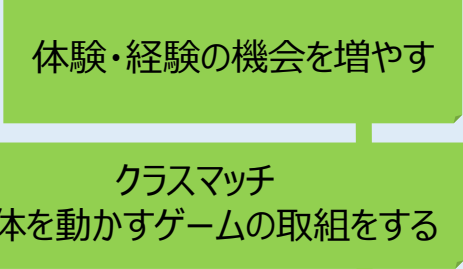
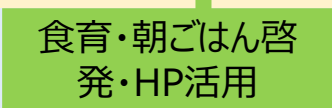
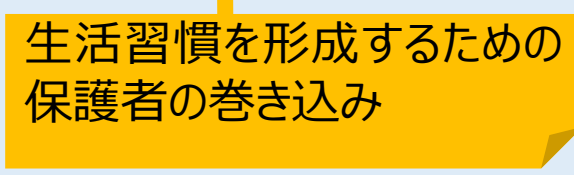
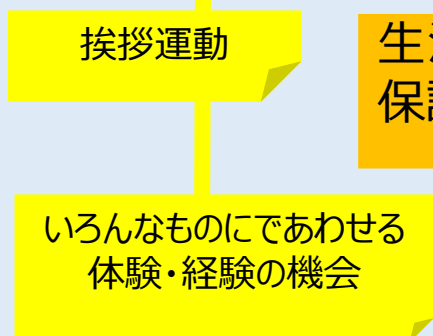
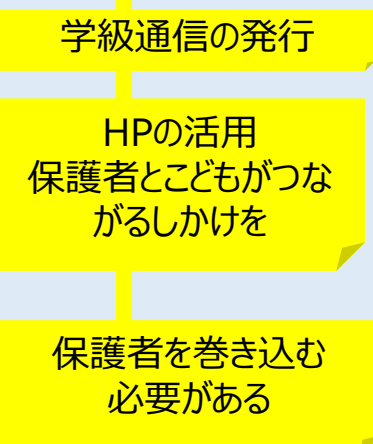
取組の実施、充実により、成果指標の数値が向上

取組の提案

子ども



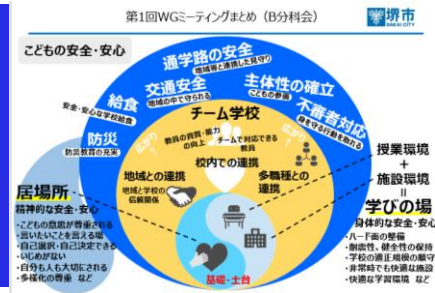
先生からのアプローチ



自分の夢と目標と、自身の身体や生活スタイルや食生活を、つき合わせて見つめる授業をする

こどもの安全・安心 に向けためざしたいゴール（第1回WGより）

「居場所」と「学びの場」という基礎・土台の確保及び、 多方向・多方面との連携、連携によって充実させられる取組を行う



どのように達成・進捗を評価するのか

成果指標の目標達成によりゴールの実現

指標の提案

危険な場合に遭遇した時にどうすればよいか分かる
(こどもアンケート)

講座後formsで、統一した質問を実施（知識・思考）
(例：友達の写真を無断でUPLしてはいけない) など

自己決定の学校風土があるのか

各支援学校の適正規模が示され、差が相違ない

「いじめがあったときに、”どうすればよいか”を学んでいる」の質問への肯定的な回答数

学校以外の「学びの場」を知っているか（認知率）

通級設置率
(小・中ともに100%をめざす。できれば自校で)

支援学校は安心・安全な環境が設定されている。
(保護者アンケート)

どのような取組により、成果指標の数値を向上させるのか

取組の実施、充実により、成果指標の数値が向上

取組の提案

防犯対策

いじめ防止対策訓練
シミュレーションでの学習
(実施方法は注意する必要あり)

ネットトラブル防止

学校の生徒数の上限を明示

見守りを保護者任せにしない。
業務外の仕事、誰がする？

学校以外の「学びの場」の設定とオープンな情報公開

学校外のネットトラブル他に相談する場所など啓発

百舌鳥支援学校の過密化、老朽化

公教育以外の選択肢を（教員も）保護者が知る機会がある

支援学校設置計画の提示

その他意見（指標&取組）
・就学援助補足率 100%
・つながりを広げる授業・取組
・こども食堂などのリソースの充実
・地域とのつながり
・窓枠が落ちてこない
・不良箇所改修100%（年度末）
・専門家の施設点検

スプリングポートなどリソースを使用するハードルを下げる
(提出資料など)

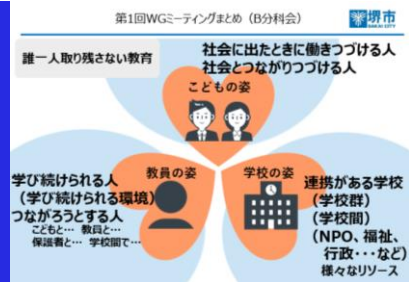
こどもの人数に応じ特別支援教育コーディネーターや生徒指導の担当人数を明示

誰一人取り残さない教育 に向けためざしたいゴール (第1回WGより)

社会に出たときに働きつづけるこども 社会とつながりつづけるこども

学び続けられる教員・環境 つながろうとする教員

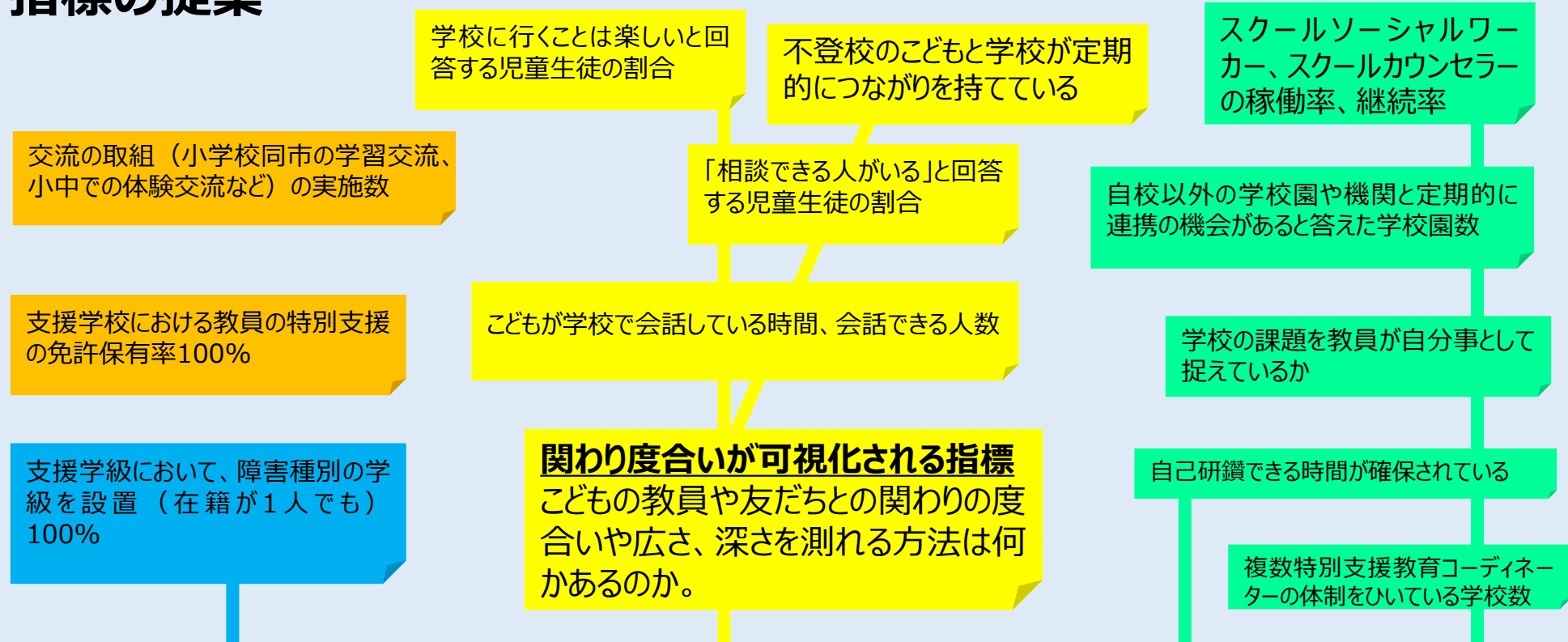
連携がある学校



どのように達成・進捗を評価するのか

成果指標の目標達成によりゴールの実現

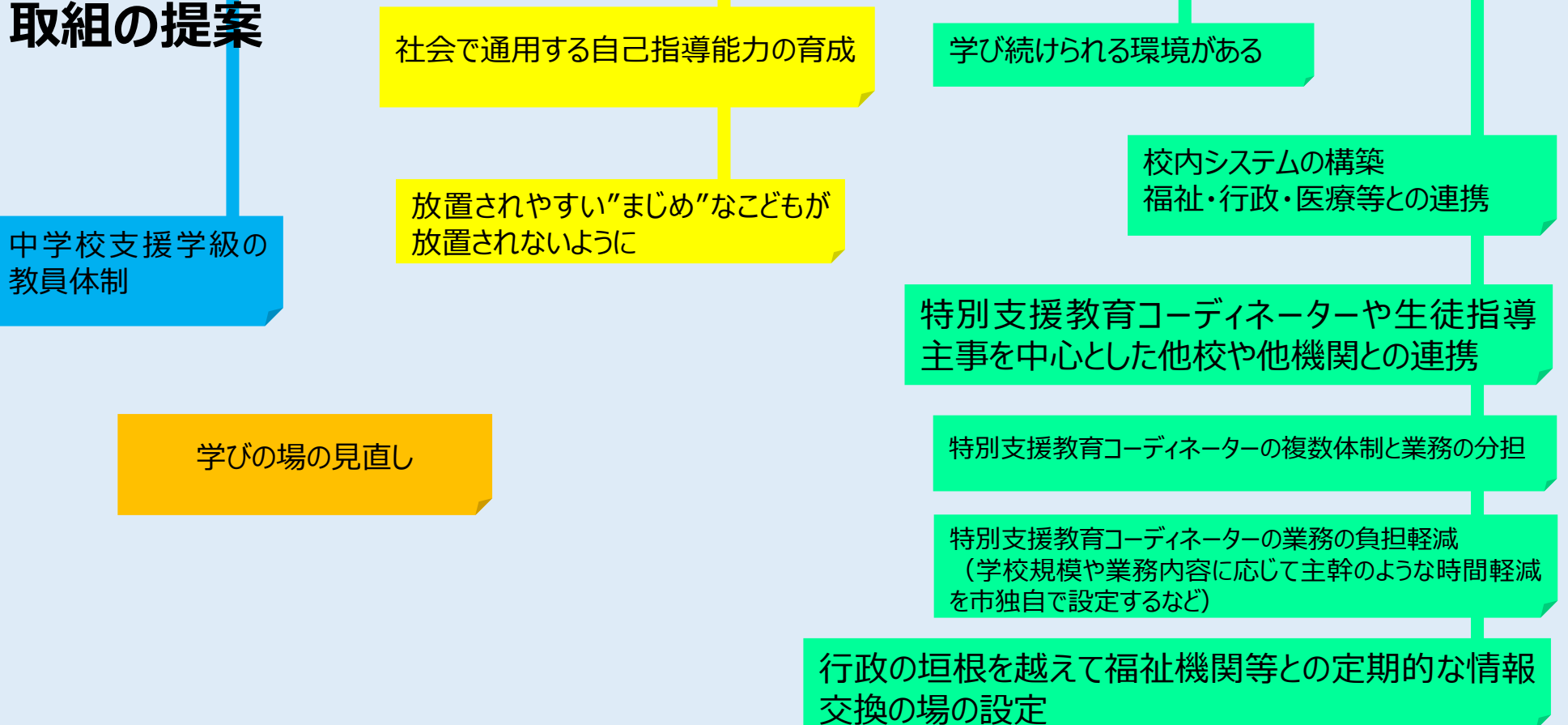
指標の提案



どのような取組により、成果指標の数値を向上させるのか

取組の実施、充実により、成果指標の数値が向上

取組の提案



学校マネジメント力 に向けためざしたいゴール (第1回WGより)

時間や精神的に余裕のある体制 (相互支援・相互理解ができる組織)



どのように達成・進捗を評価するのか

成果指標の目標達成によりゴールの実現

指標の提案

生徒指導等にかけている時間
(生徒指導を少なくする)

対応する教員数
(学校群の活用を含む)

ノークラブデーの
実施率

余裕ある時間の確保

どのような取組により、成果指標の数値を向上させるのか

取組の提案

部活動の外部人
材の活用

ルール化・マニュアル化

保護者対応の
ルール化

行事や“伝統”の見直し
(前例踏襲×)

“暴力”に関する
ルールづくり

学校安心・安全
ルール

各校実態に合わせた働き方改革
・留守電対応の時間の統一
・教員が対応すべき勤務時間前後の線引き
・自分のペースに合わせた勤務時間
→My 定時

業務量等の見える化

報・連・相ツール、
メールや掲示板、
teamsの活用

メンター・メンティー制度
立候補制で、定数は決めない。
若手教員を気にかけている先生は
多くいる。

管理職のマネジメント

教員の持ち授業時数

助けを求められる教員数

全教職員対象に働き方
改革、学校マネジメントに
関してのアンケートの実施

マネジメントシートに管理
職の働き方改革の意識
についての項目を加え、
任意提出ではなく全員提
出に持っていくことはできな
いか

学校群

学校群のしくみを活用
した業務改善が実施さ
れているか

学校群で教材研究を
協力して進めている数

不祥事 0

取組の実施、充実により、成果指標の数値が向上

全市的に働き方改革につい
ての意識を統一する。
(「教材研究を怠って早く帰
るのはだめだ」のような古い固定
観念からの脱却)

管理職研修の充実

他市を参考に授業時数の上
限を定める。
(八王子市では総授業実数
は標準授業時数に18時間を
加えた時数を上限としている)

システム改修
学校群内共有フォルダなど
現在のICT活用チーム (teams
内) を参考に、いい実践を共有。

不祥事案件を自分事で捉
えるために、
各校で「個人情報」「わいせ
つ」「飲酒運転」「体罰」など
の各事案について研修担
当者を割り振り、教員が他
の教員に研修を行うような
プログラムがあってもよい。
または学校規模で、不祥事
防止指定校の指定、他の
学校へ発信するなど。
事務局→学校へという構図
にこだわらない。

考えられる不祥事の原因
・当事者の趣味嗜好 (対応困難)
・モラル問題 (研修が有効か)
・しくみの問題 (調査書の外国
語の位置など)
・日々の多忙さ (余裕のある体
制の必要性)

社会で育てるこどもの育ち に向けためざしたいゴール (第1回WGより)

相互支援・相互理解ができる体制・関係



どのように達成・進捗を評価するのか

成果指標の目標達成によりゴールの実現

指標の提案

連携

生涯教育

地域人材の活用
(スクールサポーターなどさまざまな場面で)

堺市内の施設
(博物館等の利活用)

図書館と学校の連携状況
・団体貸し出し
・読書支援の数 など

堺版コミュニティ・スクールの実施校数

保護者

関係性

学校群 学校 地域

学校の働き方改革の取組に対して肯定的に捉えている、また多忙感を理解している保護者の割合

教職員と保護者(地域)の関係ができています

お互いの状況を
しっかり理解しあう

地域・学校が行事(イベント)について話し合う場がある

どのような取組により、成果指標の数値を向上させるのか

取組の実施、充実により、成果指標の数値が向上

取組の提案

ボランティア人材の確保の工夫

学校群を活用した人材の確保

マイスタディのような取組の復活
地域人材の積極的活用

図書館の活用方法を学校(教員、児童生徒)へ周知

地域資源を知る
周知する、使えることを知らせる

事務局代表(局長級)、学校代表(代表校長、代表教頭、指導教員など)、自治会長(代表的な方)、PTA会長(各区1名程度)、各区長の5者間での協議や会議を実施し、お互いの立場から意見を伝え合う。また、地域だけでなく、市長部局内の関連課も関わるように。

地域と学校が協働的に子どもたちの支援をするように、お互いの理解をより含める。全市的に、学校と地域での役割分担を(できること、できないことを含めて)明確にし、統一したい。家庭も含めて。

学校、地域、家庭のどこか一つに負担が偏らないように協働するにはどのようにしたらいいのか...

地域行事 教職員にも地域にも家庭にもメリットがあるといい

こどもの意見の取り入れに関する取組

出前授業



目的

- ・こども基本法の観点（下記参照）から、**市内の児童・生徒の意見を次期計画に取り入れる。**
- ・児童・生徒が次期計画をより“**自分事**”として捉え、**自分たちが受ける教育について主体性**をもつ。

実施校

実施済6校

実施予定9校

6月11日	赤坂台小学校（小学6年 2クラス）
6月19日	少林寺小学校（小学6年 1クラス）
6月20日	土師小学校（小学6年 2クラス）
6月25日	浜寺小学校（小学6年 委員会）

7月1日	登美丘東小学校（小学6年 2クラス）
7月4日	錦西小学校（小学6年 2クラス）
7月15日	美原北小学校（小学6年 3クラス）
7月16日	庭代台小学校（小学6年 2クラス）
7月17日	福泉中央小学校（小学5年 2クラス）

出前授業



授業の流れ 例1

いくつかの小さな問いについて考える、議論する



- ・教育委員会の仕事について
- ・教育プランについて



- ・議題について、考える



- ・グループで意見を深める
- ・意見をまとめる



- ・ふりかえりを書く

議題例 (課題は担任の先生と協議をして決定)

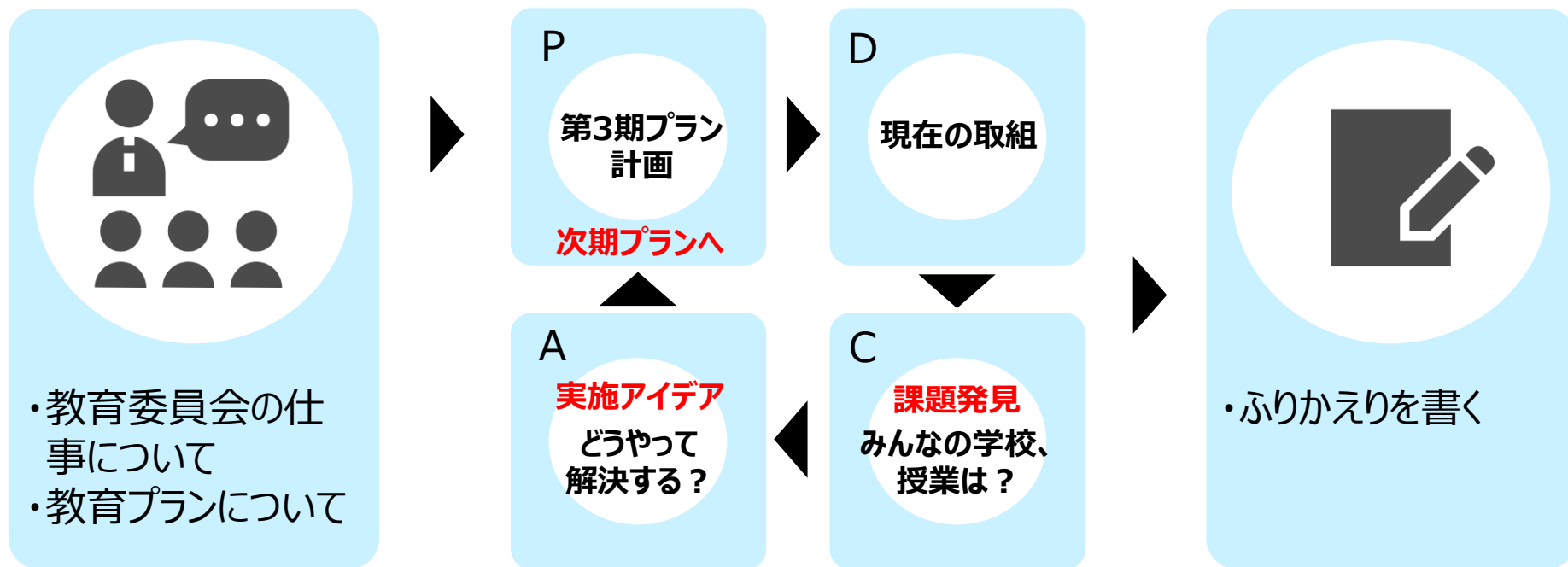
- ・やる気が出る授業はどんな授業？
- ・どんな宿題がならやりたくなる？
- ・どんな給食がいいのか
- ・みんな（堺市の児童）がそれぞれ自分の学校をもっと好きになるために、どんなことができるかな？

出前授業



授業の流れ 例2

PDCAサイクルを意識して、一つの大きなトピックを扱う



それぞれの学校の先生方と打ち合わせをし、それぞれの児童にあった授業を

計画・実施

① 「勉強がんばろう！」とやる気が出る時



どんな時「勉強がんばろう！」とやる気が出てくる？

・ゲームやクイズがある時	・ご褒美をもらえる時	・図工(作る系)がある授業や自由時間がある
・ほめられた時	・自分の考えたものが採用された時	・分からない問題が分かるようになった時
・発表しあう授業	・パソコンを使ってする授業	・問題や課題がすごく理解できた時
・将来役に立つ授業	・インターネットを使って調べる授業	・みんなで協力して何かを作り上げる授業
・好きな教科の時		

「自分で進めていく学び」と「教えてもらう学び」について

自分で進めていく学び	教えてもらう学び	どちらもいい
<ul style="list-style-type: none"> 今は教えてもらう授業が多いから、自分で調べる授業も増やしてほしい。 自分が気になったときに、好きなように勉強をすすめたいため。 自分の思った通りに進められるから。 先生の話聞いて黒板を写すだけだったら自分はそんなに考えないから頭に入ってこないけど、自分で進めていける授業だったらすべて自分で考えるからそっちの方が大変だけど勉強になると思うし、自分はそっちの方が好きだから。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ひとりでやると他の人と話してしまうから。 ◇先生に教えてもらう方が失敗しないから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分からない時は教えてもらえると新しいことが分かるけど、自分で分かる時には自分ですることもしたい。 ・自分たちだけじゃ解決できない問題もあるし、自分の意見をしっかりと伝える場面が少ないから。 ・考えて分からなかった教えてもらう。 ・自分でするときとわからない時は先生に教えてもらう。 ・算数だったら、わからなかったりしたら先生に教えてもらったり、新聞づくりだったら自分たちで調べてまとめたりする。

② 学校や教室にあったらうれしいもの・安心するもの

安心・安全	設備(せつび)	娯楽(ごらく)
廊下に周りが見えない一人の空間	各階に保健室	ボードゲーム
車いす用のスロープを階段に設置	トイレがきれいになったらうれしい	図書館にマンガを置いてほしい
運動場に緊急用ボタン	水道の温度調節	冷凍庫(氷がほしい)
温かい便座	室内で遊べる場所	ウォーターサーバー・自動販売機
温水プール	図書館に本をもっとおいてほしい	生き物とふれあえる場所
すずしい体育館	黒板がテレビになったり、ホワイトボードになったりする	室内植物園
エレベーター		コンビニ
廊下に矢印		通学路ビンゴ
寝る場所・ソファ		

③ みんながそれぞれ自分の学校をもっと好きになるために

出前授業 意見まとめ

- 電子黒板を置く
- 友達との交流を増やす
- グループでの交流を増やす
- みんなが言いたいことを言える環境をつくる
- 授業をゲームのようにする。
- 宿題や勉強をしたら、ご褒美をもらえる
- 休み時間を長くする
- 得意な教科を増やしていく。
- 色んな人と関わられるようになるために週に1回、席替えをする
- 自転車での登下校
- 相談しやすい環境をつくる
- お楽しみ会を3日に1回
- 給食にデザートが出る
- 一人ひとりの長所や短所を理解して、一人ひとりに声掛けをしてくれる先生がいてくれたらいい
- 学校に来たら1日1回シールがもらえて枚数に応じてご褒美がもらえる(例:宿題がなくなる)
- 職員室の前に1日1回スタンプを押して1ヶ月たまると図書カード100円分をもらえる
- 人それぞれ勉強が苦手とかあるから、部屋を別にして苦手な子が授業を理解できるように部屋を作る

ふいかえり・感想(1組・2組)

- ◇自分の思っていたことをいうことができたし、一人一人の思っていることが違うから面白かったし、楽しかった。
- ◇今日はみんなの意見を聞いたりするのが知れてよかったし、楽しかった。今日は色々なことを知れた!!
- ◇学校はみんなのところだから、みんなの意見を聞くのは大切だと思った。
- ◇みんな、自分だけのことを考えるのではなく、みんな楽しいと思える事を考えていたからとてもいいと思いました。
- ◇もしこんなことが実現したらいいなとか、してくれたからこれが実現したら堺のいろいろな学校がよりよくなると思う。
- ◇学校がよりよくなったら、来るのが楽しくなるし今日の授業で自分の思いを伝えることができたからよかった。
- ◇自分の思いを堺市教育委員の人に言えてすごい体験だった。
- ◇これからもっと堺市の教育がよくなってくるといい安心した。
- ◇できないものもあるけど、できそうなものを考えてやってくれるからすごいと思った。すごい楽しかった。
- ◇今回の授業は自分の思いを伝えられるような感じで楽しかった。自分はいつも発表したいけど自信がなくてできないことがあるため、自分の思いや考えが伝わるとうれしい。
- ◇このみんなの考えが叶ったらいいと思うし、自分なりの考えを否定せずに聞いてもらえてうれしかったです。
- ◇いつもの授業では考えないことを考えれて楽しかった。
- ◇事務局の人はみんなのために色々な工夫をされていたりしてすごかったし、これからもっと学校を楽しみたいと思った。

① 「勉強がんばろう！」とやる気が出る時



どんな時「勉強がんばろう！」とやる気が出てくる？

授業が楽しい時	明日テストがある時	勉強についてほめられた時
勉強がおもしろそうな時	字をきれいに書けた時	分からない問題が分かるようになった時
テストでいい点が取れた時	問題が簡単そうだった時	友だちに、はげましてもらえた時
勉強が分からない時	友だちにテストの点をこされた時	問題の内容がしっかりわかった時

「自分で進めていく学び」と「教えてもらう学び」について

自分で進めていく学び	教えてもらう学び	どちらもいい
<ul style="list-style-type: none"> 自分でやったほうがやる気が出るし、自分で問題を解いたら達成感があるから 集中しやすいから 一人でやる方が達成感がある 自分からチャレンジして達成感があるから 自分のペースで勉強できるから 理解ができた時楽しいから。 自分のペースでできるしきちんとわからないところも調べるから。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人でやると他の人と話してしまうから 	<ul style="list-style-type: none"> 自分でやる時、正解したときの気持ちよさがあるし、わからない問題があった時は質問する やり方を知っている時は自分でできるし、分からない時には、やり方を知りたい 自分では分からない問題や意味が分からない時は、教えてもらいたいけど、ばって答えが出た時や自分で図を書いたりするときは自分でやりたい ◇できる問題は自分で努力、わからない問題があったときは教えてもらう

② 学校や教室にあったらうれしいもの・安心するもの

安心・安全	設備(せつび)	娯楽(ごらく)
<ul style="list-style-type: none"> 全部の階に保健室 相談室 教室の机に区切りがあるといい 教室にメダカがいたらうれしい メダカに愛着を持つとメダカのために教室も落ち着くし、生き物が近くにいたら楽しそうだから。 お花や生き物 休み時間になるといつも走っているし、リラックスできるから。 休憩場(教室にソファー) 	<ul style="list-style-type: none"> すべり台(2名) 加湿器 タブレットじゃなくてスマホ 階段にエスカレーターが欲しい。 温かい便座(べんざ) 運動場に日陰をつくってほしい。 ウォーターサーバー 	<ul style="list-style-type: none"> 室内で遊べる場所 野球ができる場所 1ヶ月に1回の6時間お楽しみ会 運動場にアスレチック(ブランコ) 体育館に大きいトランポリン 雨の日用のボードゲーム プールにスライダー 室内に温水プール

③ みんながそれぞれ自分の学校をもっと好きになるために

みんながもっと好きになる学校

出前授業 意見まとめ

- 休み時間を増やす
- 給食の時間を増やす
- 修学旅行を選べる
- 文化祭
- 行事ごとを増やす(遠足を増やす)
- 選択肢をもらえてそれで決める
- 勉強が苦手な人でも楽しめる環境を作る
- 苦手な人の意見も尊重する
- もっと授業面白くする班をつくってみんなで勉強する
- 授業をゲームみたいにする
- お楽しみ会みたいな時間を何日に1回とか決めると学校に少しでも行こうと思う
- 今日だけ休み時間が長くなったり、少し早く帰れるイベントみたいな日を作る。
- 笑えて毎日が楽しい授業を送れるイベントなどがある学校
- 好きなイスを使える
- 好きな高さの机を使える
- おやつタイムを作る
- 授業の内容を選べる
- テストの点数によってポイントとかもらえて、そのポイントを文房具とかに交換できる
- 修学旅行の行先を投票で決める(修学旅行2泊3日)
- 好きな給食(給食バイキングをする)
- 1つの科目だけでいいから、それぞれの理解度に合わせたクラス分けをして、それぞれの理解度に寄り添えるようにする。
- 勉強でわかんなかった問題や相談などを気軽にできる空間

ふいかえり・感想(1組・2組)

- ◇自分の思っていたことをいうことができたし、一人一人の思っていることが違うから面白かったし、楽しかった。
- ◇今日はみんなの意見を聞いたりするのが知れてよかったし、楽しかった。今日は色々なことを知れた!!
- ◇学校はみんなのところだから、みんなの意見を聞くのは大切だと思った。
- ◇みんな、自分だけのことを考えるのではなく、みんな楽しいと思える事を考えていたからとてもいいと思いました。
- ◇もしこんなことが実現したらいいなとか、してくれたからこれが実現したら堺のいろいろな学校がよりよくなると思う。
- ◇学校がよりよくなったら、来るのが楽しくなるし今日の授業で自分の思いを伝えることができたからよかった。
- ◇自分の思いを堺市教育委員の人に言えてすごい体験だった。
- ◇これからもっと堺市の教育がよくなってくるといい安心した。
- ◇できないものもあるけど、できそうなものを考えてやってくれるからすごいと思った。すごい楽しかった。
- ◇今回の授業は自分の思いを伝えられるような感じで楽しかった。自分はいつも発表したいけど自信がなくてできないことがあるため、自分の思いや考えが伝わるとうれしい。
- ◇このみんなの考えが叶ったらいいと思うし、自分なりの考えを否定せずに聞いてもらえてうれしかったです。
- ◇いつもの授業では考えないことを考えて楽しかった。
- ◇事務局の人はみんなのために色々な工夫をされていたりしてすごかったし、これからもっと学校を楽しみたいと思った。

教育理念とめざす教育像について

教育理念 ひとづくり・まなび・ゆめ

堺市のめざす教育像

こども像 それぞれの世界へはばたく“堺っ子”
学校像 こどもの未来をつくる学校
教員像 情熱・指導力・人間力を備えた教員

上記目標達成のためにめざすもの

未来を切り拓く力の育成

基本的視点

ウェルビーイング・教育DXの推進・新たな学校のあり方

3つの基本的方向性

こども 教師・学校 教育環境

9つの基本施策

教育理念 ひとづくり・まなび・ゆめ

堺市のめざす教育像

こども像	それぞれの世界へはばたく“堺っ子”
学校像	こどもの未来をつくる学校
教員像	情熱・指導力・人間力を備えた教員

第1回次期教育振興基本計画策定懇話会における苫野構成員からのご意見

- 教育理念やめざす教育像について、今回の計画では議論しないのか。理念から問い直すことは可能なのか。
- 最上位の教育理念である「ひとづくり・まなび・ゆめ」についての共通認識が必要であり、「ひとづくり」「まなび」「ゆめ」とはそれが何なのか議論ができればいい。

教育3役及び部長級職員が参集する局内会議で意見交換と協議を実施

教育委員意見交換会にて、教育委員との協議を実施

教育理念

ひとづくり・まなび・ゆめ

1.豊かな心の人づくり 2.確かな学びの形成 3.ゆめをはぐくむ教育の推進

※第1期・第2期・第3期
教育プランにおいて共通

期	名称	期間	めざす教育像		
			こども像	学校像	教員像
第1期	未来をつくる堺教育プラン	2011（平成23）年度～2015（平成27）年度	それぞれのせかいへはばたく“堺っ子”	静謐な教育環境 学校園の「チーム力」 一貫した教育を行う 地域コミュニティ学校	情熱・指導力・人間力を備えた教員
第2期	第2期未来をつくる堺教育プラン	2016（平成28）年度～2020（平成32）年度	それぞれのせかいへはばたく“堺っ子”	子どもの未来をつくる学校	情熱・指導力・人間力を備えた教員
第3期	第3期未来をつくる堺教育プラン	2021（令和3）年度～2025（令和7）年度	それぞれのせかいへはばたく“堺っ子”	子どもの未来をつくる学校	情熱・指導力・人間力を備えた教員

※文言は第3期
プランのもの

ひとづくり・まなび・ゆめ

豊かな心の 人づくり

自分のよさや可能性を知り、多様な価値観を認め、相手の立場を思いやり大切にできる豊かな心、大きな視野で社会やものごとをとらえることのできる心のゆとり、秩序を重んじ、社会性を身につけるための規範意識の育成を進めます。

確かな学び の形成

社会の中で生きていくために必要となる、自ら問題を発見し、試行錯誤しながら解決し、新たな価値を創造していくことができる力や、自ら学び、他者と協働しながら、学んだことを社会で生かすことのできる幅広い学力の確かな形成に努めます。

ゆめを はぐくむ 教育の推進

未来をつくる子どもたちが、自分のよさや個性、可能性を発揮し、ゆめの実現に向けて多様な選択ができる誰一人取り残すことのない教育を推進します。

また、先人から受け継いだ自由・自治の精神、歴史・文化を継承し、優れた文化を創造できる教育を推進します。

※文言は第3期
プランのもの

子ども像

それぞれの世界へ

はばたく“堺っ子”

- 自分のよさを知り、人を認め、人とつながり協働する
- 自らを律し、自ら学び続け、自らを表現する
- ゆめの実現に向けて挑戦する
- 堺を愛し、堺を誇りとする
- 多様な価値観を認め、多様な文化を理解する

学校像

子どもの未来をつくる学校

- 主体的・協働的な学びを通して「総合的な学力」を育む学校
- 多様性を認め、一人ひとりの個性を尊重する学校
- 子どもの発達段階に応じて一貫した教育を行う学校
- 「チーム力」を発揮し、家庭・地域・関係機関とともに子どもを育てる学校
- いじめの未然防止・早期発見・早期対応に真摯に取り組み、早期解決を図る学校

教員像

情熱・指導力・人間力を

備えた教員

- 子どもを愛し、ゆめと情熱をもち続ける人
- 子どもに寄り添い、学び続け、確かな指導力をもつ人
- 豊かな人権感覚をもち、信頼される人間力をもつ人
- 高い危機管理意識をもち、子どもの生命や心身の安全・安心を確保できる人
- 「いじめは絶対に許さない」と毅然とした態度を示し、子どものSOSに気づく感度の高い人

教育理念

ひとづくり

豊かな心を育む

- #自分のよさや可能性
- #多様な価値観
- #人権意識
- #他者の立場や思いを尊重
- #持続可能な社会の創りて
- #主体的な社会参画
- #新たな価値を創造
- #規範意識の育成

まなび

確かな学びの形成

- #自分自身で学びを見つける力
- #学ぶことを楽しむ力
- #自己調整し行動に繋げられる力
- #思考、判断し、行動する力
- #協働、共感しながら学び続ける力
- #自分の人生を舵取り
- #学びを自身の人生や社会で生かす
- #思考力、学び続ける力

ゆめ

ゆめをはぐくむ教育の推進

- #自分のよさや個性、可能性の発揮
- #個に応じた教育の推進
- #ウェルビーイングの確保
- #地域や家庭と共に学び支えあう
- #段差のない9年間の学びを実現
- #多様な主体と連携した教育
- #自由・自治の精神や文化の継承
- #優れた文化の創造

めざす教育像

こども像

それぞれの世界へはばたく “堺っ子”

- #自分のよさを知る
- #人を認める
- #人とつながり協働する
- #学ぶことを楽しむ
- #自ら学び、自らを表現する
- #社会の変化に柔軟に対応する
- #状況にあった最適解を見出す
- #ゆめの実現に向けて挑戦する
- #堺を愛し、堺を誇りとする
- #多様な価値観を認める
- #多様な文化を理解する

学校像

こどもの未来をつくる学校

- #個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る
- #「総合的な学力」を育む
- #こどもの発達の連続性を大切にする
- #一貫した教育を行う
- #多様性を認める
- #一人ひとりのよさや可能性をのばす
- #それぞれに適した学びの場を提供する
- #こどもが安心して自己を発揮できる
- #校種を超えて「チーム力」を発揮する
- #家庭・地域・関係機関など多様な主体と連携する
- #自主的・自律的で自立した学校
- #いじめの未然防止・早期発見・早期対応・早期解決を図る

教員像

情熱・指導力・人間力を 備えた教員

- #豊かな人権感覚をもつ
- #こども・保護者・地域に信頼される人間力をもつ
- #ゆめと情熱をもち続ける
- #心身共に健康な状態で安心して働くことができる
- #変化を前向きに受け止める
- #探究心をもって学び続ける
- #高度な指導力をもつ
- #豊かな人権感覚をもつ
- #こどもと真摯に向き合う
- #こどもと共に成長することができる
- #“自覚”と“誇り (PRIDE)”をもつ
- #高い危機管理意識をもつ
- #こどもの生命や心身の安全・安心を確保できる
- #こどものSOS に気づく感度が高い